

埋文えひめ

(第14号) 平成3年3月

編集・発行 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター 〒790 松山市一番町4丁目4-2 TEL.0899(41)5645
FAX.0899(31)8302
整理事務所 〒791-02 温泉郡重信町田窪字井口36-8 TEL.0899(64)8438
FAX.0899(64)8452

平成2年度のあゆみ

確認調査を県教育委員会芸術文化財室と二人三脚で実施するなど、新たな調査体制の年となり、また、整理事務所を伊予郡砥部町から温泉郡重信町に移転したあわただしい年となった今年を振り返ってみました。

- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 4月1日 | 四国縦貫自動車道埋蔵文化財調査(～3月31日) | 11月1日) | |
| | 来島大橋関連埋蔵文化財調査(～3月31日) | 16日 | 川内町確認調査(重信道路)(～18日) |
| | 県道伊予川内線埋蔵文化財調査(～3月31日) | 18日 | 全国埋文協中 四国九州ブロック会議4名参加(高松)(～19日) |
| 2日 | 松山環状線埋蔵文化財調査(～3月25日) | 27日 | 今治 越智社会科同好会講師1名派遣 |
| | 今治バイパス埋蔵文化財調査(～3月25日) | 11月6日 | 伊予市確認調査(圃場整備)(～7日) |
| 3日 | 重信道路埋蔵文化財調査(～3月26日) | 7日 | 今治市確認調査(今治バイパス)(8 13～15日) |
| 6日 | 西条市確認調査(天神山) | 8日 | 全国埋文協コンピューター等導入研究委員会1名参加(大阪)(～9日) |
| 13日 | 今治市内遺跡詳細分布調査2名派遣 | | 伊予市確認調査協力(圃場整備)(～9日) |
| 5月14日 | 国立歴史民俗博物館資料調査1名派遣 | 13日 | 朝倉村確認調査協力(圃場整備)(～15日) |
| | 28日 埋文センター第1回役員会 | 17日 | 瀬戸内海歴史民俗資料館「考古学専門講座」1名参加(高松) |
| | 31日 全国埋文協コンピューター等導入研究委員会1名参加(千葉)(～6月1日) | 20日 | 川内町確認調査(圃場整備)(～22日) |
| 6月14日 | 全国埋文協総会2名参加(大阪)(～15日) | 25日 | 「伊予国分尼寺跡とお筆山古墳 耳金城跡展」(於県立歴史民俗資料館)(～3年5月30日) |
| | 「大小谷谷窯跡と高原古墳 轟城跡展」(於県立歴史民俗資料館)(～11月11日) | 28日 | 伊予市確認調査(県道) |
| 7月3日 | 奈文研研修「遺跡探査過程」1名参加(～18日) | 30日 | 中小企業短期技術者研修(粘土瓦課程)講師1名派遣 |
| | 11日 県内古墳分布調査2名派遣 | 12月1日 | 中世土器研究会1名参加(長岡京)(～3日) |
| | 27日 今治史談会講師1名派遣 | 6日 | 奈文研研修「石器調査課程」1名参加(～18日) |
| 9月4日 | 砥部町確認調査協力(～5日) | 13日 | 上浦町確認調査協力(架橋) |
| | 6日 四国縦貫自動車道踏査協力(伊予市～大洲市)(7 12～14日) | 20日 | 大西町調査協力(～27日) |
| | 19日 全国埋文協研修会2名参加(福島)(～20日) | 1月31日 | 埋文えひめ13号発行 |
| 10月6日 | 中 四国旧石器文化研究会1名参加(岡山)(～7日) | 2月9日 | 竹ノ鼻遺跡現地説明会開催(川内町) |
| | 11日 奈文研研修「環境考古過程」1名参加(～ | 10日 | 馬島亀が浦遺跡現地説明会開催(今治市) |
| | | 19日 | 宇和町調査協力 |
| | | 3月12日 | 川内町確認調査協力(重信道路)(～13日) |
| | | 18日 | 伊予市確認調査協力(県道)(～19日) |
| | | 23日 | 四国縦貫道(西条市 小松町 丹原町)現地説明会開催 |
| | | 29日 | 埋文えひめ14号発行 |
| | | | 埋文センター第2回役員会 |

報告書刊行の紹介

四国縦貫自動車道埋蔵文化財
発掘調査報告書 Ⅲ-Ⅰ

本書は、四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査の一環として、昭和62年度から昭和63年度にかけて行った、宇摩郡土居町に所在する7遺跡（医王寺ⅠⅡⅢ遺跡、長命寺遺跡、平坂ⅠⅡ遺跡、小富士遺跡）についてのものである。

各遺跡の内容で共通しているのは、弥生時代中期後半から後期初頭にかけての竪穴住居跡や土器溜などが検出されたことである。一括遺物からみると、医王寺Ⅲ遺跡の1号土坑出土土器を最古とし、小富士遺跡の1号住居出土土器を最新とする。この間、遺跡ごとに若干の時間的差違を持ちながら、上記の期間をはば埋めることができる。

その他、縄文時代早期の土坑（落とし穴など）、古墳時代の箱式石棺、中世の土坑（墓坑など）、近世墓などが検出され、それらに伴う土器や陶磁器などの遺物も出土している。（作田）

四国縦貫自動車道埋蔵文化財
発掘調査報告書-Ⅳ

本書は四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査の一環として昭和62年度から平成元年度にかけて行われた、西条市大字飯岡字半田に所在する半田山遺跡についての発掘調査報告書である。

遺跡の時代及び時期については、古い時期としては、押型文や沈線と磨消し縄文の土器片が散在して出土していることから縄文時代早期～縄文時代後期

と考えられるが、遺跡の大半の時期としては、弥生時代中期後半から後期初頭と考えられる。遺構として竪穴住居跡19棟 掘立柱建造物55棟 土坑105基

柱穴が検出され、それに伴って当該期の土器 石器が出土している。また、土師器を出土した弥生時代後期末～古墳時代と思われる住居が1棟検出されている。これらのことから縄文時代早期～古墳時代初頭の長期にわたる生活空間として、この半田山丘陵が利用されていたと考えられる。（米澤）

甦える埋蔵文化財
第4集

調査普及事業の一つとして過去2回の写真集と1回の史跡特集冊子を発刊してきた。

今回は昭和59年度以降に調査を実施した遺跡の中から、特に時代を反映している内容の遺跡を選び、縄文時代晩期から弥生時代 古墳時代 中近世に分けカラー写真を中心に構成してみた。

また、調査普及事業の目的である埋蔵文化財に対して親しみをもって接して頂くために、年表の作成や本文中で使用した用語の解説などを新たに加えてみた。

本冊子で登場する遺跡は、今治市の中寺州尾 松木遺跡（縄文時代晩期）、西条市の池の内遺跡 朝倉村の南甲遺跡（弥生時代）、伊予市の上三谷古墳群 砥部町の水満田古墳群（古墳時代）、川之江市の大小谷窯跡（奈良時代）、今治市の片山内福間遺跡 中寺八町遺跡（中世）、川之江市の轟城 仏殿城（中 近世）の10遺跡である。（中野）

発掘調査速報

美沢遺跡

松山市美沢町

松山環状線の建設工事に伴う遺跡の調査は、昭和60年度よりの継続事業であり、平成2年度分として美沢地区の調査をA区とB区に分け実施した。

美沢地区は、旧石手川支流で小河川の氾濫原と考えられる低湿地に位置し、縄文時代～中世迄の遺構遺物が検出された。遺物の大半はローリングを受け



美沢遺跡A区全景

たもので河川の流れ込みと考えられる。A区は土坑6基 溝6条 柱穴27基、B区は土坑13基 溝3条 柱穴71基を数える。特にA区の6号溝で古墳時代後期の土師器 須恵器片が集中出土した状況や、土坑より出土した弥生時代中期の壺 中世の土鍋 漆器碗等は特筆すべき検出であり、また、A B区共に大量出土した布目瓦は、隣接すると考えられる「澤庵寺」関連遺物として興味深い。B区においては、楕円形の土坑の脇に添って弧を描くように三日月状の遺構が3基確認され、現在のところ用途不明であるが、今後類例調査を進めたい。(中能)

登畑遺跡

今治市登畑

一般国道196号今治道路の建設に伴い、昨年度に引続き今治市登畑地区(8,000㎡)の発掘調査を、実施した。今年度はI区～VI区、XI区～XV区の調査を行ったが、中世の土坑約30基、柱穴約400基など中世の集落遺構が検出された。(XI区～XV区)出土遺物より14世紀初頭の遺跡と考えられる。また動物の骨と思われる骨片を多量に出土した土坑や輸入陶磁器、銭貨、多量の鉄滓等が出土しており、今後の検討により遺跡の性格が明らかになるものと考えられる。

また、I II区では弥生時代の土器類が多量に出土しており、今治地区の弥生土器の良好な資料となるであろう。

国府時代の遺構 遺物は確認できなかったが、来年度以降も継続調査が予定されており、今治東部地区での古代 中世の集落跡の分布が明らかになるものと思われる。(安宅)



登畑遺跡XIV区

竹ノ鼻遺跡

温泉郡川内町南方

竹ノ鼻遺跡は建設省重信道路と四国縦貫自動車道の建設に伴い4月より1年間の調査を行った。調査面積は建設省で約7,000㎡、道路公団で約3,000㎡を

対象とし、宝泉川右岸の調査区では弥生時代後期と古墳時代初頭の土器が出土し、国道11号寄りの調査区では古代末(9～10世紀)と、中世(13～14世紀)の遺構 遺物を出土した。

古代末と中世の遺構 遺物を出土した調査区では現地説明会も実施され、30m級の溝が二条、南北に並列して検出された他、数多くの土坑や掘立柱建造物なども確認した。特に中世の遺物出土状況は興味深いものがあり、柱穴内から完形品の土師皿が壁面に貼付いて出土したり、皿を積み重ねた状態も確認された。全国的にも中世の遺跡発掘例は増加しつつあるが、本遺跡は川内町で初のまとまった中世の遺跡発掘調査として高く評価されよう。(多田)



竹ノ鼻遺跡遺物出土状況

亀ヶ浦遺跡

今治市馬島

馬島亀ヶ浦遺跡は、来島海峡中央に浮かぶ、馬島の浜堤(標高 約1.3m)に営まれた集落遺跡である。遺構は、竪穴住居跡15棟(弥生後期 古墳前期 奈良)のほか、柵列(古墳前期)、溝 土坑、掘立柱建造物や矢板列(中世後半) 防波堤(近世)など、各期の多様な遺構を検出した。竪穴住居は、弥生後期の小型長方形と古墳前期以降の中型方形に大別され、検出棟数からすれば、集落の最盛期は古墳前期であったと考えられる。

遺物は、各遺構から該当期の土器 石器や製塩土器(弥生後期～古墳前期)が出土し、また包含層か



亀ヶ浦遺跡I区全景

ら、縄文晩期(刻目凸帯文)、弥生前 中期(板付Ⅱ式 櫛描文 凹線文)、中 近世(蓮弁文青磁 三彩 罌釜)の土器類をはじめ、布目瓦(中世)や土錘(各期)が多数出土した。

本遺跡は、その立地や出土遺物から看取られるように、内海の要衝、来島海峡を拠点として、日常は塩業や漁業を営みつつ海上交通を直接担い、東西文化交流に寄与した「来島海人」の遺跡である。(谷若)

平松遺跡

伊予市上三谷平松

県道「伊予一川内線」のバイパス工事の進められている伊予市上三谷平松で、工事に先立ち約6,000㎡について発掘調査を実施した。遺跡は、大谷川によって形成された扇状地上に位置しており、標高は17~21mである。今回の調査により、弥生時代から中世にかけての複合した遺跡であることが明らかになった。遺構は、第1調査区においては掘立柱建造物3棟、土坑7基、溝3条、約200口の柱穴、第2調査区からは、弥生時代(中期)の竪穴住居跡1棟、掘立柱建造物1棟、土坑2基、第3調査区からは、掘立柱建造物1棟、土坑1基と河川跡と思われる大溝状遺構が検出された。出土遺物は、弥生時代から中世にかけての土器類が約5,000点出土した。このうち約60%は弥生土器であった。第1区の溝内からは、土師器や須恵器が多く出土し、この中には、円面硯などもみられた。また、第3区においても、多数の土師器須恵器が集中して出土している。(小林)

◎以下は、四国縦貫自動車道関連の12遺跡である。

横山城跡

西条市中野

横山を南西に仰ぎ見る瘦せ尾根の先端部(標高約90m)400㎡を調査した。当初は、中世の山城に関わる遺構 遺物の検出も考えられたが、弥生時代中期後葉から後期初頭の円形の竪穴住居跡1棟、隅丸方形の竪穴住居跡1棟、土器溜1基と、土坑2基、小穴数口が検出された。

円形竪穴住居跡は、直径5.5mを測り、炉跡を中心に、柱穴8口、周溝の一部が残存している。住居跡内からは、口縁部に凹線文の施された壺、甕、高坏や石庖丁等が出土した。尚、この住居跡の埋土を掘り込む形で検出された土坑から、13世紀の瀬戸焼の灰釉瓶子が1点、横倒しの状態で出土している。

隅丸方形竪穴住居跡は、大半が調査区域外にかか

り、全容は明らかではないものの、埋土から弥生時代後期初頭の土器片や中世の遺物の出土をみた。

土器溜めからは、円形竪穴住居跡内出土とほぼ同時期と思われる土器片が多数出土した。また、もう1基の土坑からは、縄文時代早期の土器片を検出したが、遺構の性格は不明である。

検出をみた貴重な資料の中で、滑石製玉1点と、姫島産黒曜石の剥片1点は特筆される。(佐々木)

船形遺跡

西条市船形

加茂川の蛇行を北東1km先に見下ろす、丘陵斜面(標高約55m)を、1,200㎡にわたり発掘し、溝2条、土坑1基、小穴10口の検出をみた。

両溝からは、13~14世紀の土師器、瓦器の小片が埋土の上面に散在した状況で出土している。

また、遺構外からではあるが、縄文土器、弥生土器、須恵器の細片を数点、検出した。(佐々木)

地藏原遺跡

西条市福武

切り立った山裾の小高い平坦部(標高約38m)を中心に、その周囲を3,200㎡にわたり調査した。

その結果、平坦部の先端から、土坑3基、小穴10数口を検出したが、どれも遺物を伴うものでなく、遺構検出面直上の土層中より弥生時代中期前半の土器片や石庖丁が出土したことも考え合わせ、遺構の時期を検討していきたい。

遺物の出土は少量ながらも、前述の遺物の他に、須恵器片、古瓦片、中世の土師器、備前、青磁の小片等にまで及んでいる。なお、経文石1点の出土をみたが、経塚等は検出されなかった。(佐々木)

尾土居窯跡

西条市氷見

調査面積4,000㎡のうち今年度は1,000㎡の調査を実施し、窯跡1基と灰原が検出された。

遺跡は尾土居川中流の谷部に営まれており、窯本体は傾斜角約20度の北向き斜面に築かれている。窯前庭部には灰原が東西15m、南北7mの範囲に広がりを見せている。

遺物は、焼成不良のため大きく歪みのできた高台付高坏、甕などが灰原一面に投棄された状態で多数出土している。時期は7世紀末葉から8世紀前半に比定できる。

平成3年度も引続き調査を継続する予定で、窯跡

や灰原の他、さらに須恵器製作工人の居住施設の検出も期待される。

本県における窯跡の調査例はまだまだ少なく、この点からも期待される調査である。(中野)

大日裏 V 遺跡

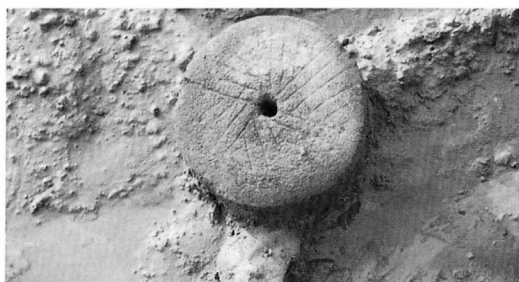
周桑郡小松町新屋敷

本遺跡においては、3 100㎡の調査を行った。

調査区は4地区に分かれ、I区では北側の谷から中世の溝1条とそれに伴う石組みの溜井戸2基、小穴群2カ所が検出され、遺構に伴い備前焼の大甕、土鍋、三足付土釜、石臼等が出土している。

II区からは尾根先端部斜面に弥生時代の円形の竪穴住居跡1棟、土坑1基、段状遺構1条が検出された。住居跡からは多数の土器片が出土したが、遺構の時期を決定するものは出土していない。土坑内には甕が斜位に入っていたが、上半分が削平されている。段状遺構は住居跡の西側を南北に走り、部分的に平坦面が残るが、時期、性格は不明である。

(作田)



大日裏V遺跡石臼出土状況

大谷池東遺跡

周桑郡小松町南川

本遺跡は大谷池左岸の大日裏山の西側斜面に位置し、大谷池に砂州状にのびる1,600㎡の調査を実施した。遺構は検出されなかったが、出土遺物は弥生時代中期～後期の土器 石器 須恵器(墨書を含む)等であり、これらは付近の斜面から流れ込んだものと考えられる。(高橋)

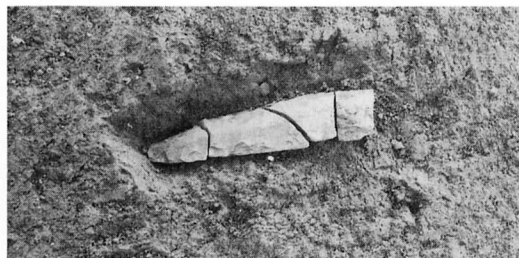
妙口遺跡

周桑郡小松町妙口

本遺跡は、丘陵緩斜面上(標高約95m)に立地している。発掘面積は、3,600㎡である。遺物のうち石器は、縄文早期の石槍 トロトロ石器が各1点、この他石鏃3点、多数のサヌカイトの剝片が出土した。土器では、火山灰と思われる黄色土層を境に、上層

から縄文後期、下層から縄文早期の土器片が出土した。なお、遺構は確認できなかった。

(妙口裏の谷古墳) 妙口遺跡から、谷を隔てた東側の丘陵上に位置している。周溝をもつ古墳時代後期の方墳である。内部主体は、南に開口する両袖玄門付の横穴式石室である。石材は砂岩を用いている。石室は、全長5.6m、玄室長3.7m、奥壁幅1.9m、最大玄室高1.06mを測る。(沖野)



妙口遺跡石槍出土状況
鶴来が元遺跡

周桑郡小松町妙口

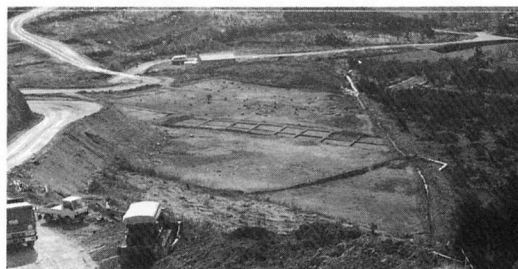
本遺跡は妙の谷川と地藏谷川によって形成された河岸段丘上に位置している。調査面積は7 900㎡である。調査区の東西で約10m程度の高低差がある緩傾斜面に遺跡が営まれている。

検出された遺構は、縄文時代後期の土坑35基、中世の土坑9基、柱穴状の小穴144口である。

縄文時代の土坑はその形状や大きさに規則性がなく円形・楕円形 隅丸長方形 不整形などバラエティに富んでいる。中世の土坑には円形のものが多し。小穴はすべて中世に属するものであるが、掘立柱建造物のような規則的配列はなかった。

土器はほとんどが縄文時代後期のもので、包含層から出土したものが多し。少数ではあるが縄文時代早期の押型文土器や無文土器も出土している。

中世の土器は、三足付土釜と土師器皿が中心でそれらの時期が概ね14～15世紀と考えられることから、近隣に位置する剣山城や修理谷城と深い関わりをもっていた集落跡と言えるであろう。(中野)



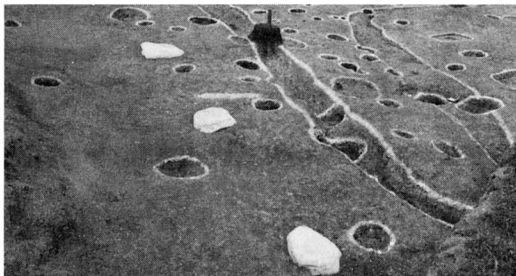
鶴来が元遺跡調査区全景

安養寺遺跡

周桑郡丹原町安井

本遺跡は周桑平野の南西部、遥かに燦灘を一望する丘陵上に位置しており、6,400㎡の範囲で調査を実施した。

調査区はⅠ～Ⅳ区に分けられ、Ⅰ区は丘陵裾部とそれより西の丘陵上の2カ所に渡っている。丘陵裾部では、礎石列 柱穴群 溝2条等を検出した。遺物は、柱穴の底部より銅鏡(直径約8cm)1点、13～14世紀を中心とした瓦器・青磁 土師器等の小破片が出土した。丘陵上からは円形の竅穴住居跡が検出され、その床面より吉備系と思われる弥生時代中期後葉の高坏が出土している。Ⅱ区は、平坦な地形で比較的新しいと考えられる近世墓八基を確認し、保存状態の良い遺物 人骨を検出した。また、中世半ばから終わりにかけての羽釜 土鍋等の土器片多数が出土し、同時期とみられる溝1条を確認した。Ⅲ区は、縄文土器片及び石器数点を検出することとまった。Ⅳ区は、有舌尖頭器1点を含む、縄文時代から平安時代末期までの遺物を検出したが、遺構は確認されなかった。(西川)



安養寺遺跡Ⅰ区礎石列

宝ヶ口Ⅰ遺跡

周桑郡丹原町湯谷口

本遺跡は高縄山系東端部で、中山川に沿って舌状にのびる丘陵上に位置している。調査面積は9,500㎡である。

調査は6地区に分けて行った。丘陵端部の斜面で遺跡全体の周辺部に当たると考えられ、各地区からの出土物は量的には少ないが、縄文時代～中世にかけてのものがある。しかしながら、Ⅵ区では旧

石器時代の尖頭器 石核 剥片等が、多量に出土した。遺物の石材は頁岩 サヌカイト チャート 水晶等、多様である。

また、出土状況から、3カ所のユニットが確認された他、数カ所の礫群 配石遺構が検出された。

県内では、旧石器時代の様相は、ほとんど解っておらず、本遺跡の整理作業をとおし、明らかにしてゆきたい。(真鍋)



宝ヶ口Ⅰ遺跡・旧石器ユニット

永野五輪塔

温泉郡川内町則之内

丘陵南側裾部に立地する本石塔は、約20㎡の調査を実施したが、調査の結果山状角柱の塔婆であることが判明した。角柱上部に二条線が施されている。風化により文字等の確認ができず成立時期は不明。なお本塔婆は移転安置されたものである。(沖野)

表川東遺跡

温泉郡川内町南方

表川東遺跡は、全体で7,200㎡あり、本年度は残された1,200㎡の調査を実施した。

本遺跡は、塩ヶ森の北麓を西流する表川の左岸に位置し、緩やかな河岸段丘上の傾斜面、海拔約130m前後のところにある。

調査の結果、掘立柱建造物4棟、柱穴群、溝1条、集石遺構1基を検出した。遺物については、土師器の杯 皿を中心に、瓦器碗 須恵器 青磁 東播系の捏鉢 搦鉢の底部 三足付土鍋の脚部などが出土している。ほとんどが流れ込みによるものであり、中世の遺物が主体をしめている。今後は遺構 遺物を詳細に検討し、竹ノ鼻遺跡の調査結果も参考にし整理作業を進めていきたい。(別府)

編集後記 今年度もまた、慌ただしい一年でしたが、なんとか乗り切ることができました。来年度も職員一丸となって、頑張りたいと思います。